

【優秀賞】

「両国を繋ぐ 世界を繋ぐ」

北海道教育大学附属札幌中学校  
2年 佐藤 愛莉

「北方領土は我が国の領土であり、現在ロシア連邦が不法に占拠している。」

地理の教科書を見てふと、思った。ロシアの教科書には北方領土について何と書かれているのだろうか。

私は以前、国際プラザ主催の「子ども領事」に参加しロシアを担当した。初日、実際に領事館で働く参事の方にインタビューをする時間があった。なかなかないこのような機会、私は北方領土についてどのように考えているのかロシアの方の生の意見をききたいと思った。悪意はない、互いの考えをよく聴き私は貴方の意見を尊重しているという意味を伝えればここから和解の道を、小さいけれどつくっていけると考えたからだ。私は手を挙げかけ、やはり下ろした。

「ロシアの領土に決まっているだろ。」そう言われたら伝えたい事も伝わらない。悪い気持ちにはさせたくない。しかしその時、参事の方がこう話された。

「北方領土問題について皆さんは知っていますか。これはとても難しい問題ですが私たちは協力して解決しなくてはなりません。私はそれを望んでいます。」

意外だった。でも互いにそういう気持ちの人がいるならこの現状を変えていける未来があるのではないか。かすかな希望が私を照らす。

和解に必要なことは「相手の意見を理解して両国が納得できる結果にしたいと思う人を増やし、より多くの人に興味を持ってもらうこと」が第一だと私は考える。悪口を言い合っているだけでは話すすまないし真剣に向きあうには北方領土問題を解決したいと思う人が必要である。私にできることは何だろう。段階を踏まえ私はまず具体的な解決策を「自分の中で」考えることにした。島は四島だ。日本とロシアで二島ずつわけるのはどうか。大きさや排他的経済水域に偏りがでてしまうようならば得する方が損する方に一定額を払えば解決するのではないか。実際にこの方法で問題は新たに生まれてしまうかもしれないが、考える事にも価値はある。次に地理の授業で発表し学級の仲間に考えを広げた。平和的に問題を解決するにはお互いに少し引き、納得できるように平等に分けて相手を理解することが必要だと思う。そう、三十五人に伝わった。もっと大人数に広げたい。そうして私はこの作文を書くことを選んだ。これを読んだ方みんなに、さらに沢山の方々に発信し、問題について考えている人がいることを伝え、北方領土について興味を持った、という方を増やすために作文を書くという形で知ってもらったのではないか。これが何人の目に触れるかは分からないが平和的にこの問題を解決したいと思う人を増やす、和解のための第一の目標に近づくことができたとは私は信じている。

これまで北方領土の話「問題」と表現してきたが、これからによっては「和解の根端」にも「両国の架け橋」にも「様々な学び」にも成り得ることだと思う。そのような平和に世界を繋ぐことができるように私はこれからも北方領土について様々な人と交流できる機会を見つけ、少しずつ自分から平和を考えられる輪を広げていきたい。いつの日か教科書に「日本とロシアの平和的協力のため北方領土は両国に平等に分けられ、正式に国に併合された。」という文字が刻まれ、両国を、正解を繋ぐ架け橋となることを願って。